

年中組で梅ジュースを作りました。ビンの中に梅と氷砂糖を順番に入れ、最後にはちみつを流し込みました。子どもたちは毎日、ビンを覗き、「できてきたよ」「氷砂糖が溶けてきたね」と、梅ジュースができあがるのを楽しみにしています。暑い夏の日の嬉しい飲み物になりそうです。

## 園の中での一人の遊び（取り組み）

## 一学期の保育の視点③より

## 自分の好きな遊びを見つけ、繰り返し楽しむ姿から

Aちゃんは登園すると、「今日は木工室やっているかな？」と木工室を見に行きます。木工室に入ると、自分の好きな板を選びます。「たんぽぽ組だから、自分で線を引くんだ。このくらいの大きさにしようかな」と言いながら定規を使い、鉛筆で線を書きます。それから木工台に板を固定し、のこぎりを手に取ります。Aちゃんはゆっくりとのこぎりを動かします。時々何度も切れているかどうかを確認し、「切れてきたよ」と嬉しそうに言います。Aちゃんは途中で「ふう、暑い」と少し手を休めながら、「こんなにたくさん切ったから、あと少し」と再び手を動かします。やがて、「ポトン」と切った板が床に落ちました。Aちゃんはその板を大切に持ち、私のところに見せにきました。私が「Aちゃん、切れたわね。やすりはかける？」と聞くと、Aちゃんは、「うん、やすりかける！」と外のベンチに座り、それから初夏の風を受けながらゆっくりとやすりをかけ始めました。

やすりをかけているAちゃんの隣で年長組の子どもたちが、板と木片を釘で打ち付けていました。自分で切った板に好きな形の木片を合わせ、金づちで「トントントン」と打ち付けています。一つ付けると、またもう一つの木片を打ち付け、形を少しずつ変えていきます。

その様子を傍らでじっと見ていたAちゃんは「やってみようかな」と言いました。Aちゃんは自分の切った板に合う木片をカゴの中から見つけ、「これにしよう」と決め、「トントントン」と金づちで打ち付け始めました。ところが、すぐに釘が曲がってしまいました。「あー」とため息をつくAちゃん。私は「やり直してみましようよ」と声を掛けました。Aちゃんは釘の下に釘抜きを当て、「なかなか抜けない」と言いながら、釘抜きの角度を何度も変え、やっとな釘を抜きました。再び新しい釘を持ち「トントントン」と打ちますが、また釘が曲がってしまいました。

Aちゃんは「うーん」と背伸びをし、「もうちょっとでできるんだけどな…」と言いながら、曲がった釘を抜き、新たな釘を打ちつけました。

何度目かにやっと釘がまっすぐ入り、木片が打ち付けられました。Aちゃんは「見て、ついたよ」と飛び跳ねて喜びました。Aちゃんは自分で作ったものをじっと見て、「顔みたい」「今度は足をつけてみようかな」ともう一つの木片を打ち付けました。その後、更に木片を二つ付け、手と足にしました。

今、子どもたちは木工室で木を切る、やすりをかける、釘を打ちつけることを繰り返しています。Aちゃんのようにできあがったものを「〇〇みたい」と見立てることも楽しんでいきます。私たちは木工がより楽しくなるようコツを伝えます。木工だけではなく、どろだんごや空き箱製作など、園の中で一人でじっくり取り組む時も大切にしています。

#### 保育者や友だちといっしょに遊びを創り出す 一学期の保育の視点④より

6月に入ってから年中組では『ねこのくにのおきやくさま』（作：シビル・ウエッタシンハ・訳：まつおかきょうこ）という絵本を土台にしたごっこ遊びが続いています。この絵本には、楽器を鳴らしたり、ダンスをしたりすることが好きなねずみが出てきます。ねずみたちは猫に気が付かれないように葉っぱの形のお面をつけて猫の国へ行き、猫の前で楽器を鳴らしたりダンスをしたりするのです。

ある日のことです。Bちゃんは自分で作ったマラカスを持って「猫の国へ行こうよ」と私に言いました。私が「そうね、猫に見つからないようにしないとね」とお面をつけていると、葉っぱのお面をつけたCちゃんとDちゃんもやってきました。3人の子どもたちは自分たちがねずみであることが猫に気付かれないよう、「ちゅー」という鳴き声を出さずに、「ランララン ランララン」と踊りながら猫の国を探しに行きました。

猫の国へ向かっていると、「船に乗ると猫の国に着きますよ」とEちゃんがやってきました。Eちゃんは積み木で船を作りながら、この話の中に入っていたのです。Eちゃんは「さっき向こうでニャーって聞こえたから気を付けてね」と教えてくれました。そのうち、そのEちゃんもねずみのなかまに加わっていきました。その後も、「ランララン ランララン」とねずみになる子どもが集まってきました。

遊びがつながっていくことはよくあることです。様々なごっこ遊びが同時に進んでいる遊びの時間ですが、保育室の中では皆が好きになった絵本のストーリーがあることで、共有の楽しさが生まれ広がっています。その楽しさが核になって渦を作り、それぞれの遊びが響き合い、つながっています。つなげる役割として、また新しい展開を生む役割として保育者が遊びに加わる時もあります。



遊びの中での同年齢の友だちとの関わりや育ち合いが感じられます。

(藤野 佳代)